

三寶寺移動研修法話会 「親鸞聖人ゆかりの地 箱根」

2005(平成17)年7月9日(土)

今年の移動法話会の目的は親鸞の信念をいただく。

「政治によって、念仏や念仏者が弾圧されても、それによって念仏がすたれ、消えさるものではない。念仏と念仏を求める人々は、場所と時間を超えて、永遠に存在しつづける。それが阿弥陀如来のおぼしめなのだ」

親鸞は有縁の人々に布教する道を選んだのである。

浄土真宗の開祖、親鸞が東国生活に終止符、京に帰る

1214年以來およそ20年間、妻子とともに常陸(ひたち)国笠間郡稲田郡(現茨城県笠間市)に住み、東国農村の民衆に念仏を説きつつ、「教行信証」の初稿本を著した親鸞(62歳)が、この年京都に帰った。

帰京の理由としては、鎌倉幕府が反論理的・反社会的行動をとる念仏者の追放令を発し、念仏取り締まりの姿勢をとりはじめたこと、信者のなかに親鸞の教えを曲解して、いわゆる「本願ばかり」(悪を行っても往生できる)の徒が現れてきたこと、「教行信証」を完成させることなどが推測される。

決意の箇所『僧にあらず俗にあらず。このゆえに「禿」の字をもって姓とす。愚禿釋の鸞……雑行を棄てて本願に帰す』

帰京した親鸞は、「教行信証」の増補修正を続けて完成させ、「浄土和讃」「高僧和讃」などの著述、諸書の書写・註釈を行って晩年までの約30年を過ごすことになる。

行程表及び説明

	バス	寒川(カメラのキタムラ前)	横内団地	伊勢原駅(大鳥居前)	三寶寺
8:30	三寶寺出発	小田原厚木道路	箱根新道	芦ノ湖大観インター出	
9:20	萬福寺	挨拶、読経、宝物拝観、記念撮影			
		慶長5年(西暦1600年)僧智元によりこの地に開山。箱根宿が開設された元和年間(1615~1623)に創立されるまで寺子屋が開かれていました。平成17年4月 御真影等身大複製完成、100年ぶり里帰り 【十字名号・親鸞聖人の直筆・親鸞聖人像(箱根の御真影)・親鸞聖人の自刻(自作)・阿弥陀如来像】			
10:00	出発				
10:10	箱根関所	見学			
		【江戸時代の関所 入り鉄砲と出女 現在復元中。箱根を越えるきびしさを知みましょう!】			
10:40	出発				
11:10	箱根町港	海賊船乗船(強風、霧の場合変更有り)			
11:30	元箱根着	昼食(絹引の里にて)			
		【箱根名物絹引うどん 箱根山の名水を使い、三島市で取れる黒ごぼうの汁を焼炭であくを抜き、ゴマ風味に仕上げた細いうどんです】 【廣志屋の五郎稚児饅頭 = 10個入り900円、15個入り1,350円、20個入り1,800円 神奈川県銘菓。希望者は予約が必要なのでバスの中でお申込下さい。この他に温泉饅頭などもあります。また、付近でのお土産散策をどうぞお楽しみ下さい】			
12:40	出発				
12:50	箱根神社	記念撮影(親鸞聖人像と一緒に)			
		【江戸時代まで、箱根権現とよばれていました。奈良時代 天平宝字元年(757)、万巻上人によって創立されました。源頼朝などに崇敬されてきました。親鸞聖人のりりしき像前で写真を撮ります】			
13:15	出発				
13:20	箱根旧街道・畑宿	お別れの石、足跡碑、写真、甘酒茶屋			
		【性信房と聖人の「別れの石」、甘酒茶屋の先に親鸞聖人の別れの時に詠んだ言葉があり『病む子をば あづけて帰る旅の空 心はここに残りこそすれ』】【寄木細工の発祥の地であり、町人宿や茶屋が連なる休憩地で有名。寄木細工は幾何学模様のバランスの美しさから、箱根の美術工芸品である。】【甘酒茶屋 米麴にご飯を加えて作る天然のビタミン、ブドウ糖が疲労回復によい。とてもあついでやけどにご注意下さい】【元気な人は、箱根旧街道石畳を歩いて、親鸞聖人の健脚ぶりを体験しましょう】			
14:00	箱根町出発	芦ノ湖大観インター	箱根新道	小田原厚木道路	
15:30	伊勢原駅着	OKストア伊勢原店前	三寶寺	寒川方面	

当日は・お念珠 三寶寺の肩衣をおもちの方はご用意下さい。おもちでない方には当日配布します。現地は涼しい場合もあるので、はおるものをご用意下さい。